

二〇一九年四月五日

釣堀の水面を埋む花筏  
宮の池雅楽に和するごと落花  
梯子かけ児も御足撫ぶお身拭ひ  
それぞれに良き名を貰ひ牡丹咲く  
初瀬川花の三輪山映しけり

せいじ  
そうけい  
なつき  
よし女  
明日香

二〇一九年四月四日

春雷や闇に稜線浮かびけり  
薬師堂薨に散らす落花かな  
遠足の子らに覗かれスケッチす

素 秀  
ぽんこ  
さつき

二〇一九年四月三日

展望台一気に占むる遠足子  
花吹雪浴びつつ札所詣でかな

さつき  
さつき

二〇一九年四月二日

新元号決まり落ち着く四月かな  
チューリップのぞき込む子の口とがる  
天守なき堀へ降り敷く花吹雪  
庭石を持ち上ぐるやに草青む  
ランタンを囲み車座花筵

董 雨  
なつき  
智恵子  
菜 々  
さつき

二〇一九年四月一日

元号の令和と変はり桜咲く  
満開の花の中なる駐在所  
花見舟岸で手を振る異国人  
花筵ここよと両手振りにけり

はく子  
やよい  
さつき  
さつき

二〇一九年三月三一日

迂回路に小さき公園花盛り  
花人を吐き出すバスやお堀端  
仰ぎつつ行きては戻る花の道

なつき  
やよい  
菜 々

二〇一九年三月三〇日

由緒ある苑の要の大桜  
磯の香の通ふ岬の菜花畑  
おひさまに向きて整列鼓草  
大道芸大技決まる花の下  
花冷や姉を見舞うて帰る道

たか子  
智恵子  
やよい  
さつき  
菜 々

毎日句会みのる選・二〇一九年四月七日